

初心者の、  
初心者による、  
初心者のための

& ポート

# ヨット挑戦記

～部屋を出よう、海へ行こう～

## 初セーリング in マリンボックス100 (中編)

アウトドアよりインドア派。風雨を凌げる場所が好き。水泳、読書、映画鑑賞と、趣味は一人ですものばかりの、マリン初心者兼読者が、ヨットの世界にお邪魔します。前回に引き続き「マリンボックス100」(神奈川県逗子市)でセーリング。2回目となった今回は、初心者が最初にぶち当たる壁、タッキングとジャイピングに挑戦。果たしてうまくいくのか!?

文=幸野庸平(本誌) 写真=山岸重彦(本誌)  
text by Yohei Kono (Kazi), photos by Shigehiko Yamagishi (Kazi)

ウエア、ゲット



幸野庸平(こうの・ようへい)  
1988年生まれ。大分県出身。  
Kaziの新人編集部員で、マリン系人。趣味は、水泳と読書。  
10月に読んで面白かった本は、  
三田誠広「いちご同盟」

### 10月の風は、 ビギナーに冷たい

10月某日。8月に初めてのデインギーセーリングを体験してから約2カ月が過ぎたこの日、私は再び逗子海岸にいた。海水浴のシーズンはすでに終わっているので、海には全然人はいない……と思っていたら、そんなことはなかった。ウインドサーファーや、SUP、ビーチランをさせられている中学生、散歩中の人、何をしているのか分からない人、などなど。なるほど、普段から海に親しんでいる人にとって季節はあまり関係なく、海は生活の一部となっているというわけなのか。

そんなふうには海を眺めていたのだが……寒い。日差しは暖かいのだが、風が冷たいのである。この日持参していたのは、半袖のスポーツウエアと競泳用着。ダメだ、こんな格好で海に出たら、間違いなく風邪をひく。海上に行くウインドサーファーたちも、ガッツリとウエットスーツに身を包んでいるではないか。「僕もアレ欲しい……」。そう思うのは、自然の流れであった。

というわけで、前回もお世話になった師匠の沼野陽人さんに相談し、セーリング用



ウエアを物色する私。素材や機能の説明を受けたが、結局よく分からないので、オレンジがよく映えるクルーセーバーのアイテムをチョイス



上: 前回、ごく普通のスニーカーでセーリングし、見事に滑りまくったため、ここはグリップ力を重視して選んだ  
左: 尻と膝の部分のガードが付いているのが特徴で、見るからにタフなイメージ。これで、滑ったり擦れたりする恐怖から解放される!

のウエアを購入することに。本当はウエットスーツが欲しかったが、金欠のため断念。代わりに別のものを物色することに。

結局、いろいろと悩んだ末に、私が選んだのは、クルーセーバーの「フェーズ2 ハイキングショーツ(Phase2 Hiking Shorts)」(参考価格: 18,000円+税)。ネオプレン生地の、ハイアウト用ショーツだ。メーカーごとにいろいろと違いはあるのだが、これから自分がどんなセーリングライフを送るのか、初心者にはいまいち想像できない。したがって、各ウエアの長所、短所が分かって



10月とはいえ、まだまだ海に入れる水温。さまざまな人たちが秋の海を思い思いに楽しんでいた

も、購入のきっかけにはつながらない。そこで、私が個人的に買い物において大事にしているルールを採用することにした。

それはズバリ、「第一印象で決めろ」。クルーセーバーのウエアデザインは、最近刷新されたらしく、グレーにオレンジの差し色の、珍しいカラーリングが特徴的で、カッコいいのだ。すみません、コレください!

ついでに、前回足元が滑りやすいと感じていたのでフットウエア「フェーズ2 ジップブーツ(Phase2 Zip Boot)」(参考価格: 7,800円+税)と、それから、まあいろいろと便利だろうということでラッシュガード「フェーズ2 ラッシュベスト ロングスリーブ」(Phase2 Rash Vest(Long Sleeve)) (参考価格: 4,100円+税)もゲットした。散財して懐は寒くなったが、おかげで体が温かくなったので、何も問題はない。

### 最初にぶち当たる壁

早速、ゲットした真新しいウエアに袖を通し、海へ。天気は晴れ、風速は1~3m/sの微風で、絶好の初心者セーリング日和である。そして今回も、シーラク(全長約5m)に乗船する。もう、すっかり自分のフネのように愛着を抱き始めているから不思議だ。

今回のミッションは、タッキングとジャイピングの習得。タッキングもジャイピングも、フネの進行方向を変える動きという意味では同じだが、まったくの別物である。簡単に説明すると、タッキングは風上に向かいながら針路変更をすることで、ジャイピングは風下に向かいながら針路変更をすること。どちらも船首が風軸(風が吹いてくるライン)を越え、フネの風を受ける側(舷)を変える動

今月の師匠

沼野陽人さん

1972年生まれ。分かりやすい指導は、右も左も分からない初心者に大好評。高校時代は陸上部で汗を流し、大学からヨットを始める。大学では主に470級に乗り、卒業後にシーホッパーを購入して、各地への遠征や、レースを楽しむ。また、さまざまな年齢層、職業の人との交流で、勝ち負けだけではないヨットの魅力を知る。ビギナーの気持ちを知るために、率先して現場へと出ていく、頼もしい先生だ。



お世話になりました!



マリンボックス100

逗子海岸にすぐという好立地の総合マリンレジャー施設。ヨットスクールのほか、ヨットや水上オートバイのレンタル、艇保管、船舶免許教習なども行っている。

神奈川県逗子市新宿2-14-4 TEL: 046-872-1550 <http://www.marinebox.co.jp/>

初心者向けの  
ヨットスクールプログラム

- 体験コース(1日): 15,000円(税込み)/1人
- ベーシックコース(3日): 41,000円(税込み)/1人
- ※複数人同時受講で割安に

ベーシックコースの初日と、体験コースは同じ内容。差額を払えば、体験コースを受けてから、ベーシックコースの残り2日分を追加で受講することも可能だ。

## できるとハマる タッキング



タッキング後に進む方向を確認したら、ゆっくりティラーを押して針路変更開始



前方を見続けながら、飛んでくるブームをかわす。前を見ている、ブームの動きは視界の端に入るので問題なし



移動したら、ティラーとメインシートを持つ手をスムーズに入れ替える。ここでモタついたり、ティラーを動かしたりすると、バランスを崩してしまう



ティラーを脇の下を通して前へ。メインシートは落とさないよう、常にどちらかの手でつかみ続ける

きで、ブームが自分の座っている側に向かってきて危険だが、一つ一つの動きを着実にこなせば、誰にでもできる動きだ。というか、基本動作なので、これができないとセーリングを楽しむことができない。

沼野さんに、「タッキングやジャイビングができずにレッスンを終えてしまう人もいますか?」と尋ねてみたが、「人によって習得までの時間に差はありますが、なかなか上達しない人でも、繰り返し練習することで、3日間のうちにできるようになりますよ」とのこと。タッキングもジャイビングも、初心者が最初にぶち当たる壁だと思うので、辛抱強く練習することが大切みたいです。

## タッキング&ジャイビング

というわけで、まずはタッキングから。分かりやすいよう、左手でティラー(舵柄)を持ち、右手でメインシートを握っている場合を想定。ちなみに、この状態はスターボード(右舷)タックでの操船姿勢となる。

タッキングを始める前に、まず、タッキング後に向かうべき方向を確認。ビギナーにとっては、瞬時に適切な針路を取るの難しいので、あらかじめ確認しておく必要があるのだ。幸い、逗子海岸には目印となる建物も多く、タッキング練習にぴったり。

確認を終えたら、ゆっくりとティラーを押し、船首を風上へと向ける。船首が風軸を越えたら、ブームが自分に向かって飛んでくるので、それを、前を見ながらしゃがんでかわし、反対側へ移動。このとき、ティラーは背中側に回ってしまうが、焦ってはいけない。最初に確認した針路へ向かうよう調節しながら、メインシートを握ったままの右手でティラーを軽くつかみ、左手は素早くメインシートに持ち替える。ティラーはまだ背中側にあるので、落とさないよう脇の下を通して体の前側に持ってくれば、タッキング完了だ。

これだけの動作をわずかな時間で行うわけだから、初心者は頭がパンクすること必至。でも、できると、めちゃくちゃ楽しい。どこに行くでもなく、ただ延々とタッキングしていきたくります。

続いて、ジャイビング。基本的な動きはタッキングと同じだが、ジャイビング時は、しばしばブームが暴れ回ることがあるので、注意が必要。暴れ回るブームに当たれば(ブームパンチ)、ケガは免れないし、体重移

動を間違えると、そのまま沈する可能性だってある。より一層の慎重さが求められるのだ。今度は、右手でティラーを、左手でメインシートを持った状態を想定。ちなみに、これはポート(左舷)タックでの操船姿勢となる。

ジャイビング後に向かうべき方向を確認するのは、タッキング時と同じ。ジャイビングでは、その後、針路変更に入る前に、シートを3~5回引く動作が入る。そうしておくことで、素早くセールを返せるようになり、ジャイビング後の針路が安定するのだ。

## 緊張感の漂う ジャイビング



ジャイビング後の方向を確認し、メインシートを3~5回引いてから、東になった部分をつかむ



ジブが反対側に移動したタイミングで、つかんだ東を手前に投げ飛ばす。同時に体は反対側へ移動



フネのバランスを崩さないよう、そして針路がぶれないよう調節しながら、腰を下ろす



最後に、ティラーとメインシートを持つ手を入れ替えば完了。視線は常に前方をキープ



これから向かう方向を確認する私。地味だが、こういう動作の積み重ねこそが、上達への近道なのだ! たぶん

シートを引き終えると、ティラーを押し針路変更開始。左手でブームの下にあるメインシートの束をつかみ、船首が風軸を越え、ジブが反対側へ移動したのを見計らって、つかんでいる束を自分の後方に向けて投げ飛ばす。それと同時に反対側へ移動し、ティラーとメインシートを持ち替えれば、見事、ジャイビング完了ということになる。

## 衝撃の事実は、突然に

この二つができるようになると、同じところをぐるぐる回ることができるようになる。ということは、つまり、行って戻ってくることもできるようになるのだ。ここまでくれば、優雅なセーリングライフの扉は、開いたも同然。おめでとございます!

なんだかんだうまくいき、早くも天狗になり始めていた私だったが、ここで沼野さん

から衝撃の事実が告げられる。「実は、今までは僕が体重移動して、幸野さんが操船しやすいようにバランスを取っていたんですよ」。……聞きたくなかった。現実さらには追い打ちをかける。「なので、今度は一人で操船してみませんか? またまた、ご冗談を。え? 本当にやるんですか? どうやら本気らしい。

ということで、次回、一人操船にチャレンジ。いったい、どうなることやら。

(次号へつづく)



集中しすぎて、口が半開きになっている

## 初心者の不安と本音

ヨットやフネと聞くと、荒れ狂う大海原を行く外洋セーリングや、過酷なレースを思い浮かべ、自然の恐ろしさに怖じ気づいてしまうかもしれない。もちろん、そういう厳しい面もヨットにはあり、それはそれでかっこよく、憧れだったりします。でも、自分なりにのんびりとヨットを楽しむことだって、当然ながらできます。まずは自分なりの楽しみ方を見つけ、うまくいったらレースに出たり、クルーザーに乗ってみたりすればいいのです。



## つだけ覚える ヨット用語

### ① クローズホールド (close-hauled)

風に対して約45度の角度で進んでいる状態。そして、最もヨットに乗っている感の出る状態でもある。アビームの状態から、風上側へ上っていき(ラフィン)、クローズホールドに入って風の力を感じ、加速する瞬間は、何にも増して最高だ、とクールな沼野さんは熱く語る。

### ② ジブ(jib)

マストより前方に展開する、かっこいい名前前の三角帆。ジブを収納して帆走してみたが、メインセールの風の受け方がまったく違い、思うように速度が出なかった。メインセールへと流れる風を安定させる役割があるらしい。メインセールに重なる、大きいタイプのものは「ジェノア(genoa)」という。これもまたかっこいい。ヨット用語は、男心をくすぐるものばかりだ。

### ③ テルテール(telltale)

ヨットのいたるところに付いている風見用のひも。とりわけ、ジブに付いているテルテールは大活躍で、これを見ながら走ることが出来る。ただし、フネが進む際に受ける前方からの風の影響を受けるため、実際の風の向きとは若干異なることがある。



覚えてちょうだい!

## 心のレーダーチャート



タッキングやジャイビングは、初心者が最初にぶつかる壁。懇切丁寧に指導してくれるが、運動量や意識すべきことも多くなるので、大変さは少し上がる

## 初心者幸野の置き手紙

タッキングもジャイビングも、それなりにできるようにはなったけれど、どうしても直らないのが、がに股。少し気を抜くと、すぐがに股になってしまい、幾度となく指摘されました。膝をくっつけるのは、タッキングやジャイビングの動作の一つとして覚えておくといいらしいです。